

竹原小学校校舎改築工事に伴う 竹原小学校遺跡地内発掘調査報告

1. 調査の経緯

- 平成 24 年 11 月 2 日 市学校教育課 埋蔵文化財照会
平成 24 年 12 月 26 日 市教育委員会 工事着工にあたっては、「試掘調査および文化財保護法 94 条通知の提出が必要」との一次回答
- 平成 25 年 3 月 29 日
4 月 16 日～20 日
6 月 20 日
- 市教育委員会 試掘確認調査
→ 工事予定地内にて竪穴住居跡を確認
- 平成 25 年 5 月 1 日 市教育委員会 埋蔵文化財の二次回答 竪穴住居址が確認された旨
平成 25 年 6 月 28 日 法 94 条の通知を県教育委員会に提出
平成 25 年 7 月 9 日 県教育委員会より、工事前に発掘調査を実施するように指示。
平成 25 年 8 月 1 日 調査開始（市教育委員会直営）
平成 25 年 9 月 7 日 配膳室前の調査終了
平成 25 年 9 月 11 日 埋め戻し作業

2. 調査の成果

今回の発掘調査では 7 軒の竪穴住居跡が確認された。住居跡の年代は、出土した土器の特徴から、古墳時代前期(約 1,700 年前)と後期(約 1,500 年前)と考えられる。主な出土遺物には、土師器(素焼きの焼物)、須恵器(灰色の焼物)、土玉(網のおもり)などがある。

住居跡の中で特筆されることは、第 6 号住居跡の規模である。その大きさは 7×9m、面積が約 63 m² (約 40 畳) もあり、小美玉市で確認された竪穴住居跡では、最大規模を誇る。したがって、地域の有力者の住居であった可能性がある。古墳時代の住居跡は、現在の住宅と異なり、正方形や長方形に掘り込んで構築される。中央の北よりには、煮炊きをするための炉があり、床面は、古民家の土間のように硬化している。

第 1 号住居跡は、焼失住居と呼ばれるもので、住居が廃絶されたあと、故意に火をつけて燃やしている。そのため、今回の調査でも、炭化した柱などが見つかっている。また、穀物などの食糧を保存する貯蔵穴や床面にて大量の土師器が確認されている。

調査において破片で出土した遺物は、今後の整理作業において、水洗、接合、復元をした上で、展示などして活用していく予定である。